

取組事例の名称等

大府市
(大府市環境パートナーシップ)



■取組の内容 (大府市)

大府市環境パートナーシップ会議の開催
(年2回程度)
メンバーからの提案、活動実績報告及び意見交換

■取組の内容 (メンバー)

活動事例1
(株)豊田自動織機 長草工場
①水槽展示
②松ぼっくり等のプレゼント

活動事例2
子育て支援サークルあそびのいっぽ
①フードドライブによる生活困窮家庭への食品支援
②アダプトプログラムへの参加
③子どもたちへの体験活動の場を提供

ねらい

一人ひとりが自分のこととして環境を意識し、学び、気づき、そして行動する市民を育む。

大府市の工夫

- ・2019(令和元)年度に、従来までの行政主導で行う会議形式から、メンバー同士が課題・提案を持ち寄り、その解決に向けた意見交換ができる場へと方向転換。
- ・各主体が連携・協働し、意見交換をしやすい環境にするため、オープンスペースで会議を開催。メンバー同士が互いを尊重し合うためのルールを説明。

♡ 見通しOK ♡ 共感・納得 ♡ 成果実感

メンバーの工夫

- ①地元の河川で捕獲した生き物等を水槽で飼育し、保育園や小学校等へ貸出。至学館大学の学生に社会活動の一つの場として参画してもらい、全体企画、魚の捕獲、手紙のやり取り、ミニ観察会、魚タッチイベント等を協働で実施。
- ②工場とれた松ぼっくりは焼却処分をしていたが、有効活用するために、大府市内の保育園等へ松ぼっくりや松ぼっくりを使った作品をプレゼント。子どもたちに自然の恵みを通した自然とのふれあいの機会を提供。

♡ 本物体験 ♡ 驚き・感動 ♡ 見守り

- ①フードドライブの実施等により集めた食品を、子育て中の生活困窮家庭への食品支援。
- ②事務所の花壇で四季折々の植物を育てるアダプトプログラムへ参加。
- ③子どもたちが楽しく参加できるような、じゃがいも収穫体験、竹水鉄砲作りなどの体験活動の場を提供。

♡ 成果実感 ♡ 本物体験

市民の状況

パートナーシップのメンバーが実施している環境保全活動等の参加者である市民の環境に対する理解度には幅がある。

メンバーの反応

- ・提案や課題に対して、質問や助言等の活発な意見交換があった。
- ・難しい課題にも、解決に向けた類似例などが挙げられるなど、前向きな議論であった。



市民の反応

- ①保育園や小学校等から届く手紙には、「魚が好きになった」「生き物のことをもっと知りたくなった」などの声があった。魚タッチイベントで園児たちが大興奮した。
- ②園児たちは目を輝かせながら笑顔で松ぼっくりに色や飾り付けを行った。多くの笑顔があふれた。



- ①子どもだけではなく、親の分も支援することで、家族で食について学びきっかけとなった。
- ②近隣の方から「花壇の前を通ると気持ちが温まる。ありがとう」など声をかけられるようになった。
- ③ノコギリ・キリなどを使い、自分で竹水鉄砲を作ることができ、子どもたちがとても喜んでいて。親も「子どものあんな楽しそうな顔を見たのは久しぶり」と喜んでいて。



成果指標

一人ひとりが自分のこととして環境を意識し、学び、気づき、そして行動する市民を育むことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・各メンバーが持つ専門的な知識や経験を活かしながら学ぶことができた。
- ・メンバー同士が会議を通して、連携・協働先を見つけていくことができた。



学習の効果&主に育まれる力

- ①子どもたちとの手紙のやりとり・ミニ観察会を通して生き物への興味を高めてもらった。学生も教育体験ができた。魚に触れることで命の大切さを実感できた。
- ②子どもたちが松ぼっくりを使って工作をすることで、身近な自然を感じる事ができた。

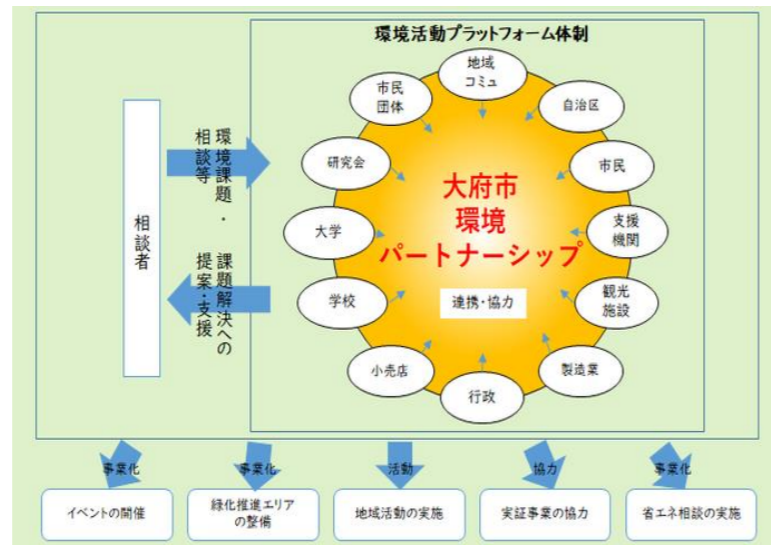


- ①フードドライブの実施を通して、地域のためにできることを子どもたちが考えるきっかけとなった。
- ②四季折々の植物を育てることを通して、季節の変化を感じることで、自然に親しんでもらうことができた。
- ③一人親家庭の子は体験活動の機会が少ないので、体験活動を通じて視野を広げることができた。また、環境を学ぶ機会を提供することで、地域の連携・協働につなげることができた。



■大府市（大府市環境パートナーシップ）

- ・市民団体・地域コミュニティ・事業者など、環境づくりに関心のある地域に密着したプレイヤーの組織として2003（平成15）年度に発足した「環境活動プラットフォーム」。
- ・地域の環境課題等の解決に向けて、連携・協力して活動を実施。
- ・環境パートナーシップ会議において提案のあった事業を中心に、環境パートナーシップ会議参加者の協力のもとそれぞれ活動を進めている。



各関係者の変容

【パートナーシップ】

[大府市のコメント]

- ・環境パートナーシップ会議の形式を変更してから、メンバー同士の交流が活発になり、環境学習等を実施できる環境づくりができた。
- ・他自治体からもパートナーシップの運営等についての問い合わせがあるなど、行政のメリットを活かす取組となった。

[メンバーのコメント]

- ・行政の持つ「信用力」「紹介力」「情報力」「発信力」を活用することができ、他団体との関係の構築がしやすかった。

【メンバーが実施した取組】

[参加者のコメント]

- ・保育園や小学校等から届く手紙には、「魚が好きになった」「生き物のことをもっと知りたくなった」などの声があった。

[メンバーのコメント]

- ・高校生までの家族を対象に食品支援を実施しているが、子どもから高校卒業前に勇気を持って自立したので、他者の支援をしてほしいという申し出があった事例が、支援者として嬉しかった。

成果と課題

【成果】

- ・会議形式を変えたことで、パートナーシップ会議のメンバーが主体的に環境保全活動等に取組むことができるようになった。
- ・地域の環境課題の解決に向けて、多様な主体が自らの強みを活かしながら連携・協働することができた。

【課題】

- ・本プラットフォームに参加していただける新たなプレイヤーの発掘